工夫して、指導していきましょう。

石井康雄（前船橋市立金杉台小学校 校長）

Q **1年生「10よりおおきいかず」は、どのように指導していくとよいでしょうか？　また、13を103と書き表す児童には、どのような指導をしたらよいでしょうか？**

A 多くの学校では、入学前の保護者説明会において、入学までに「10までの数は、数えられるようにしておきましょう」という話をします。したがって「10よりおおきいかず」は、子供にとって、小学校で初めて経験する数になります。

導入では、P66の挿絵を使って発問をしていきます。「川の両側の動物や花たちが出会ったら、いくつになるでしょうか。」という問いに対して、この時期の子供ならば、「10と3で、13びき」と答えるでしょう。なぜなら、運動会の玉入れなどで、10以上を数えることを体験したからです。P67でえんぴつくんが言うように、13は「10」と「3」の合成数です。13を「103」と記述してしまう子は、この「じゅう」「さん」を漢数字のように数字を続けてかいた結果であると考えられます。そこで、10より多いものの数に多く触れさせ、10、11、12、…、20の数字のかき方とよみ方を繰り返し練習させましょう。この段階で位取り記数法を徹底する必要はありませんが、数図ブロックや数図と数字を対応させることで、13の1は「10」が1こ、3は「1」が3こあることを表していることを示してもよいでしょう。P68では、数の概念を定着させる指導です。数のよみ方やかき方、大きさくらべなど、教科書に従って順序よく指導しましょう。P69では数え方の工夫を学習しますが、そのときにも児童によっては数字のよみ方かき方に重点をおいて指導するようにします。

P70は、10をこえる数の合成・分解です。10までの数の合成・分解が既習となり、10より大きい数でも合成･分解ができるかと問いかけをした後で、二人一組で活動をさせましょう。ここでも「10といくつで〇」の合成から入り、「〇は10といくつですか」の分解へという順に指導しましょう。

P72からは、数系列についての学習です。挿絵のように黒板などを使ってカードを並べさせます。この活動をじっくり行わせましょう。これができれば、「かずのせん（数直線）」をつくり出すことができます。子供の思考の流れを大切にしながら、教科書のように順に教えていきましょう。学年が上がるにつれて、数は大きくなったり小さくなったりしますが、この数直線の指導が基本事項になりますので、発問を工夫して心に残る指導をしましょう。

P74は数の構成に基づいた計算です。ここでは、前時までの合成・分解の学習を受けて、10＋4の仕方をだいちさんの吹き出しのように、数図ブロックを使って全員に言わせるようにします。一人一人が確実に言えるようになるまで指導することが重要です。学級の実態に即し、工夫して指導していきましょう。P75は（十何）と1位数との繰り上がり・下がりのな

い加減計算です。１位数の計算をした後、「10 といくつ」に着目させましょう。
　P78 からの復習では、子供たちにとっては△3が理解しにくいので、少しだけ全体指導することを勧めます。

Q　１年生「なんじなんじはん」で、時計のよみ方の定着を図るには、どうしたらよいでしょうか？

A

　時計がよめるようになるには、反復学習が効果的です。そこで、日常の学校生活の中で時計のよみ方をいつでも指導できるようにします。そのためには、P80 にある挿絵のように、一日の学校生活を時間の経過とともに確認していきます。つまり、アナログ時計と実際の活動を結びつけることで、机上の論理にならないように工夫します。また、挿絵と同じような掲示物をつくり、時計の近くに設置して、いつでも確認できるようにしましょう。最近はデジタル時計が日常化していることもあって、長針と短針の見方の定着には時間がかかりますが、学校生活の流れに沿って、教室の時計や掲示物を効果的に使ってよみ方を繰り返し指導していけば、いずれは挿絵などが無くても正しく読めたり、時計を操作したりすることができるようになります。P81 の QR コンテンツは、時計のよみ方がクイズ形式になっていますので、家庭学習でも活用できます。

Q　１年生「おおきさくらべ（１）」では、どのようなことに気を付けて指導したらよいでしょうか？

A

　「大きさくらべ」では、量の概念とその比べ方を指導します。比べ方の学習は、一般に「直接比較」「間接比較」「任意単位による比較」「普遍単位による比較」と進めていきます。１年生では、「直接比較」「間接比較」「任意単位の比較」を扱います。指導においては、それぞれに合う場面を設定し、どのように比べればよいかを児童から引き出すことが大切です。
　P82、83 では、手元に２本の鉛筆を用意して「直接比較」をします。P82 の動作や吹き出しのようにして比べさせると、どちらが長いか意見が分かれますので、この相違を大切にしましょう。その後で、なぜ意見が分かれたのかを話し合わせ、えんぴつくんのように、「端を揃えて比べる」「まっすぐに並べて比べる」という考えを引き出しましょう。だいちさんやひなたさんの吹き出しのような発問を工夫してください。子供たち自身が発見することで、見方・考え方の力が付いてきます。この測定の基準をつくる活動は、比較するときの基本になりますので、全員に作業させましょう。
　P84 では「間接比較」を扱いますので、手元での「直接比較」ができない場面をつくるようにします。P85 は「任意単位による比較」です。「任意単位による比較」では、それまでの「どちらが長いか」だけではなく、「どちらがどれだけ長いか」を問い、数値化する必要性をもたせるようにします。P86 からの「かさくらべ」では、見た目と測定したときの感覚の違いをつかませ、「かさ」の概念を指導していきましょう。２年生の「かさ」の指導への指導過程を確認し、思考がつながっていくよう工夫して指導しましょう。